

平成 25 年 3 月 8 日
日本原子力発電株式会社

本日の敦賀発電所敷地内破碎帯の調査に関する有識者会合
第 3 回評価会合における審議について
(当社コメント)

本日の「敦賀発電所敷地内破碎帯の調査に関する有識者会合第 3 回評価会合」において、当社の敦賀発電所敷地内破碎帯の調査に関し審議が行われた。しかしながら、そのとりまとめ方は、一方的かつ公平・公正さを欠いたものであり、容認できない。

当社は、昨年 12 月 10 日の第 1 回評価会合の直後に「公開質問状」を提出して以来、評価会合の場で意見を述べ科学的な議論ができる機会を与えられるよう、繰り返しお願いをしてきた。またそれと同時に、1 月 22 日及び 2 月 5 日には、評価書案に対し当社の見解及びその根拠となる調査データ等を提出し、評価会合において十分に検討いただくようお願いをしてきた。

しかしながら、本日の会合においては、当社から、これまで行ってきた調査に基づき、新たなデータも示して、活断層ではないことを立証したにも拘らず、その取りまとめにおいては殆んど考慮されなかった。特に当社が提出した重要なデータを何ら考慮することなく、根拠となる事実・データの裏付けを示さないままに、可能性のみに基づいて一方的な結論づけを行ったことは、誠に遺憾である。

当社としては、本日の議論及び本日出された評価書案について精査した上で、後日意見を提出・公表するが、本日の会合で出された指摘も踏まえさらに調査を行う計画である。原子力規制委員会に対しては、こうした調査結果も踏まえ、評価会合において改めて議論を行う機会を与えられるよう、強く要請したい。

以 上